

共同利用施設の再編集約・合理化に関する事例【穀物、北陸農政局】

福井県 越前たけふ農業協同組合（新基本計画実装・農業構造転換支援事業：R7～R8）

- JA越前たけふ（南越前町、越前市）が所有する老朽化した**3施設の乾燥調製貯蔵施設等を1施設に再編集約**。
- **作期分散や高温耐性品種の作付割合を増加し**、高品質米を生産することで、生産者の収益向上を図る。

現状・課題並びに再編集約等の内容

【産地の現状・課題】

- 当産地では、乾燥調製貯蔵施設等を整備してから**40～50年が経過**し、その間担い手への農地の集約に伴い、各経営体での乾燥調製施設の整備が進み、**施設の利用率が低下**していた。

【再編集約等の内容】

- **老朽化した3施設の共同利用施設を1施設に再編集約**し、施設の**運営コストの低減及び利用率の向上**を図る。

東部CE
昭和51年建設
処理能力5,278 t
利用率13%

※集約後は解体



解体2施設の機能を集約

今庄RC
昭和53年建設
処理能力2,250 t

※災害により休止
※集約後は解体

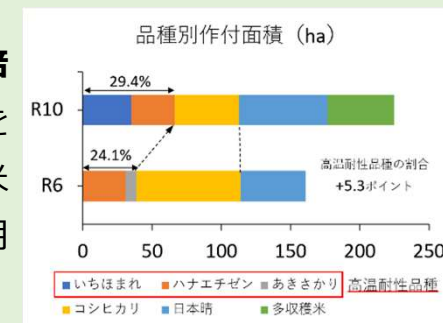


南条CE
昭和62年に建設した建屋を活用し、調製施設（選別機、粳摺り機等）を機能向上。
処理能力4,134 t
利用率48%→72%



再編集約・合理化等で期待される効果

- 乾燥調製貯蔵施設の機能向上により、施設の**運営コストを削減し、組合員の負担縮減**を図る。
- 再編集約に合わせて、作期分散などの**栽培体系の見直しや高温耐性品種への転換**を強く進めることで、生産性の向上と高品質米の安定生産を図り、**生産者の収益向上**が期待できる。



他産地へのメッセージ

- 工事の内容に抜け漏れがないように、最初に再編集約する施設の内容や範囲を確定させ、**余裕をもって関係機関と協議**を行った後に申請を行うことが重要。
- 修繕費がかさむ老朽化した施設を集約し、集約した施設の**利用率を向上させ、施設利用料金の低減**を図る。また、機能向上した施設で荷受量に応じた利用料還元を実施し、乾燥調製作業が追いつかない大規模農家の**利用拡大に繋げる**ために事業を活用した。